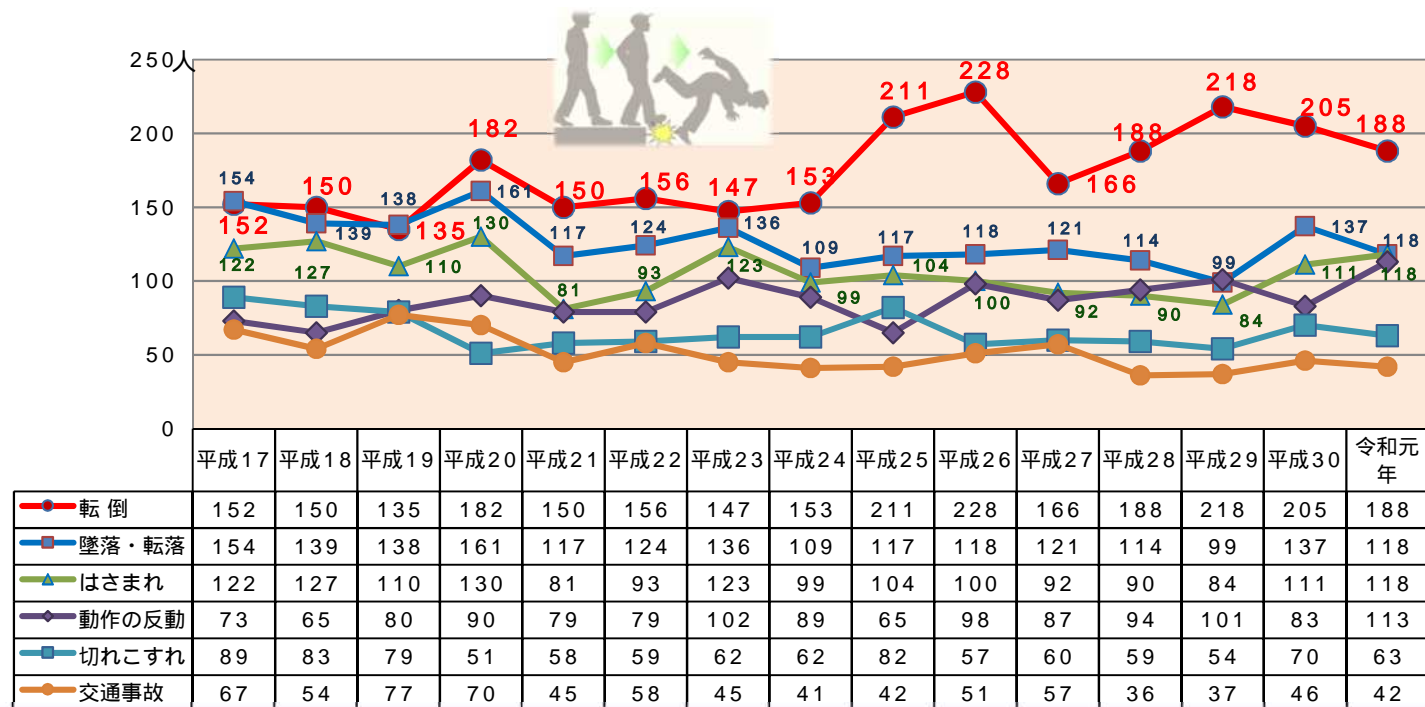


# 山梨県内における「転倒災害」の現状

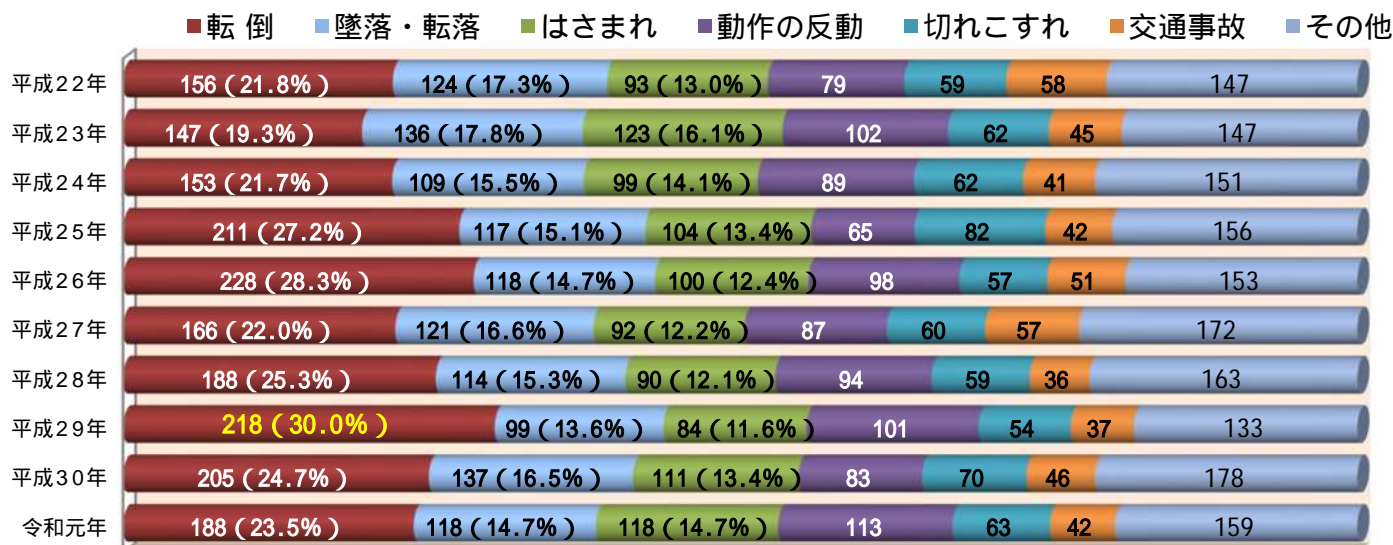
## 1 主な事故の型の発生推移（平成17年～令和元年）

山梨労働局

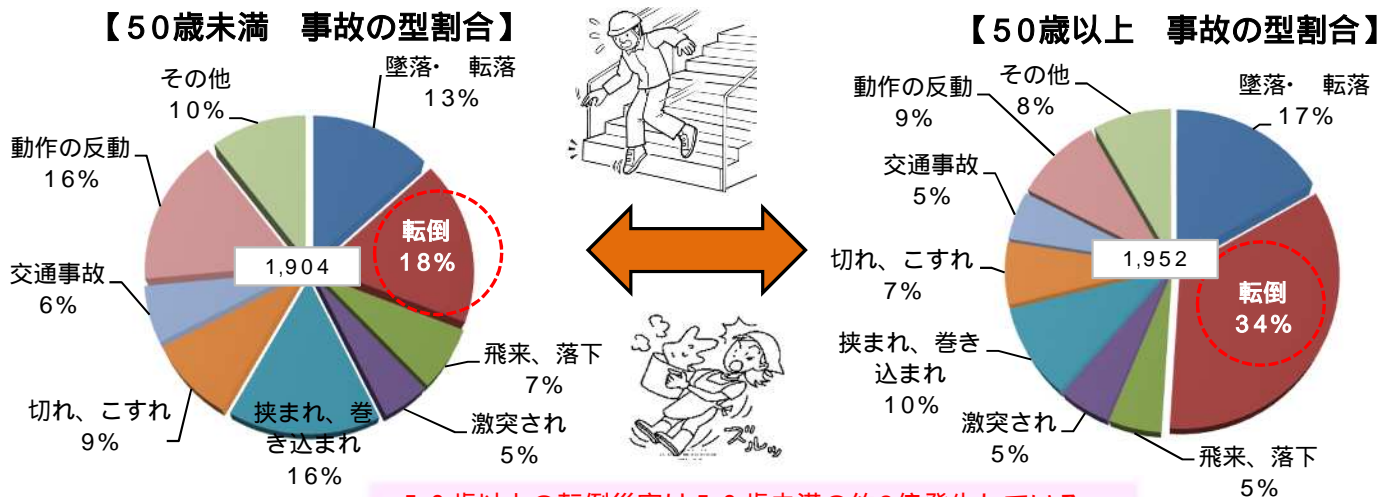


平成20年以降は「転倒」災害が常に事故の型のトップとなっている。平成29年には全災害の30%を占めた！

## 2 主な事故の型 発生割合（平成22年～令和元年）



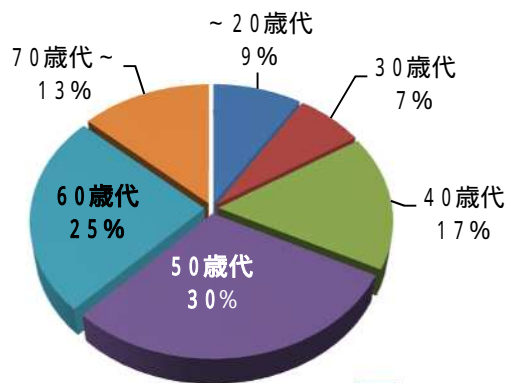
## 3 事故の型別（50歳を基点とした比較）の状況（平成27年～令和元年の5年間(3,856人）



50歳以上の転倒災害は50歳未満の約2倍発生している。

## 4 令和元年 転倒災害の年代別発生状況

### (1) 転倒災害の年齢別発生割合



転倒災害の約4割が  
60歳以上の労働者！  
その7割以上が女性労働者！

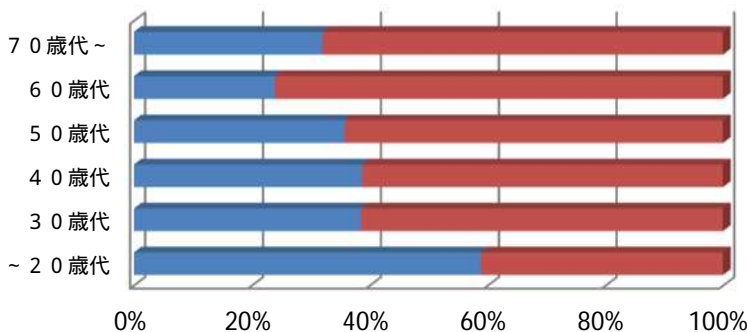


(1) 令和元年の転倒災害の188人の被災者を年代別にみると、50歳代が最も多く30%を占め、次いで60歳代25%、40歳代17%、70歳代13%の順となっている。

転倒により被災する方の約4割が60歳以上となっている！

(2) 年代が高くなるほど、女性労働者の割合が増加しており、60歳以上の被災者は7割以上となっている。

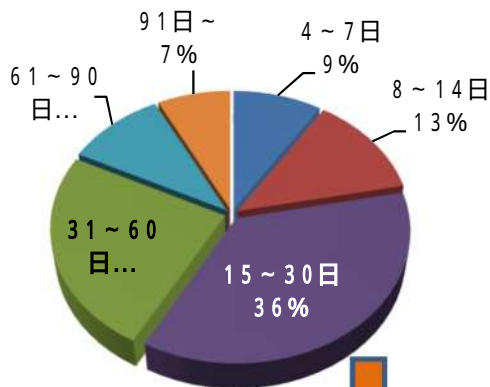
### (2) 転倒災害の男女別発生割合



	～20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～
■男	10	5	12	20	11	8
■女	7	8	19	36	35	17人

## 5 令和元年 転倒災害の休業日数別発生状況

### (2) 休業日数別割合



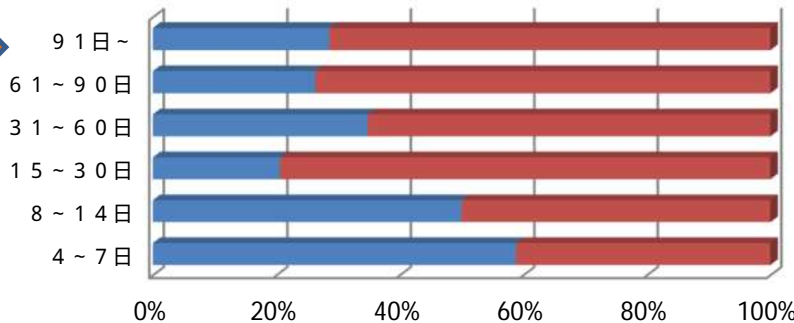
転倒災害が発生すると  
4割以上の方が  
1か月を超える休業となっている！



(1) 令和元年の転倒災害188人の被災者を休業日数別にみると、15～30日が最も多く36%、次いで31～60日が25%、8～14日が13%、61～90日が10%順となっており、転ぶという単純な災害でも、ひとたび発生すると4割以上の方が1か月を超える休業災害となっている！

(2) 年代が高くなるほど、休業日数が長い災害になる傾向が高く、特に3か月を超える災害については、一昨年の7人から昨年は14人に倍増するなど、重篤な災害に直結する可能性が大きいといえる。

### (2) 休業日数別割合



	4～7日	8～14日	15～30日	31～60日	61～90日	91日～
■50歳未満	10	12	14	16	5	4
■50歳以上	7	12	54	30	14	10人

## 6 山梨県内における「転倒」による死亡災害の事例

山梨県内における過去10年間の「転倒」による死亡災害は5件発生しており、フォークリフト等の乗り物運転中にバランスを崩して乗り物とともに転倒する災害が3人、番号1, 4のように作業面で足を滑らせて転倒するという、単純な災害で2人が亡くなっている。

### 平成21年～30年における転倒による死亡災害一覧

番号	発生日 発生地	年齢 性別	業種 職種	事故の型 起因物	災害の概要	
1	H21 8.17 甲斐市	60 男	その他 小売業 運転手	転倒 通路	コンクリートミキサー車を使用して生コン工場敷地内に散水するため、ミキサー車のタンクにホースで水を入れる作業中、タンクの水量を確認するためミキサー車後部に近づいたところ、コンクリート床が濡れていたため、足を滑らせて後頭部を強打した。	
2	H21 10.9 静岡県 静岡市	40 男	運送業 運転手	転倒 フォーク リフト	飼料運搬車のタンクに飼料を投入する作業中、運転していたフォークリフトが横転し、運転席から投げ出され、フォークリフトの下敷きとなった。	
3	H22 3.12 甲府市	64 男	警備業 警備員	転倒 乗用 車、バ ス、 バイク	駐車場の交通誘導警備業務を終え、原動機付き自転車に乗り帰宅しようとした被災者が、駐車場出口から道路に出ようとした際、出口に張られていた鎖に気づかず、当該自転車に引っ掛かり、転倒したものの。	
4	H25 1.15 富士川町	56 男	建設業 (道路建 設工事 業) 土工	転倒 通路	降雪のため工事現場に向かう林道が不通となったことから、同僚がトラクター・ショベルで雪かきを行っていたところ、被災者は雪かきを行っていた作業現場から少し離れた乗用車に歩いて戻る途中、アイスバーンとなっていた下り坂の道路で転倒し頭部を負傷した。	
5	H30 2.6 中央市	52 男	製造業 作業員	転倒 フォーク リフト	コンクリート製造中に発生した砂を貯めていた容器（バケツ）を、フォークリフトのフォークに巻き付けたフック付きワイヤーロープで吊り上げ、フォークリフトのフォークをほぼ最大限まで引き上げた状態で走行中、フォークリフトが横転し、フォークリフトの下敷きとなったもの。	

全国と同様に、山梨県内においても仕事中に転倒して被災する労働者は労働災害で最も多く、令和元年には山梨県内における休業4日以上労働災害の3割近くを占め、平成20年以降は常にトップとなるとともに、特に年代が高い労働者が転倒した場合は重症化する割合が高くなっています。

転倒災害はどのような職場でも発生する可能性があるため、事業主及び働く全ての人々が常に問題意識を持ち、災害の防止に取り組むことが重要です。

厚生労働省・山梨労働局・甲府/都留/御代田労働基準監督署では

**「STOP! 転倒災害プロジェクト」を展開中です!**

[厚生労働省 ホームページ]「STOP! 転倒災害プロジェクト」で検索!!